

# 正解だけを求めない。大人は同じ疑問の共有を

子どもの「理科離れ」が いわれる中、教育現場では どのように受けとめ、どの ような取り組みを展開して いるのか。理科教育や教材 の充実を考える西宮市立小 学校教科等研究会理科部会 長を務める野崎弘作・高須 西小学校長に聞きました。

子どもの「理科離れ」 がいわれていますが 「本当にそうなんですか。 どうか。文科省が公表したア ンケートでも、小学生の九 割以上が「理科の授業が好 き」と答えています。中学 ・高校など、受験が絡む時 期ならともかく、小学生は とにかく実験好きです。や ってみようという意欲が環 境においてやると、どんど ん自分でやってみようとい います」

野崎弘作校長に聞く

「自分の考えを膨らま せ、世界を広げていけるこ とでしょうか。私は子ども のころ、雲を見るのが好き でした。雲の名前は知らな かったけど、『今日の雲は ソフトクリーム』とか言っ て楽しんでました。植物で も動物でも名前を覚えるこ とより、愛でる方がいい。 調べ方さえ分かっていたら いいのです。それより、い るんなことに興味を持って 自分なりに考えるのが大事 だと思います」

「自身はどんな少年時 代を

「岡山の前で育ちまし た。家の前に吉井川という 結構大きな川があって、そ んな景色をばーっと眺めて いるのが好きでした。 『魚がはねているな』とか 『山の形が変わってきた ぞ』とか。日ごろの勉強に はプラスになってませんが、 そんな環境が今の自分に影 響を与えたと思います」

今の理科教育の問題点 は

「授業時間が少なくな ったこともあり、正 しい結果や結論だけを出す ことが目的になっているよ うな気がします。実験でも 完璧なものを求めるとつら くなる。失敗したら、なぜ 失敗したかを考え、次の実 験に生かせる方がいいです」

では、大人はどうやっ て子どもに接すればいいで しょうか

「大人も子どもも、もっ とやじ馬根性を持ってほし い。子どもが疑問をもった らそれを否定せず、同じ土 俵で考えてあげてください。 授業時間だけでなく、 地域や家庭にも理科の素材 はあふれています。幸い西 宮は山や川、海など環境資 源にも恵まれています。身 の回りにも興味を持って いて、興味や関心を持つこと が、理科嫌いをなくす近道 だと思います」



高須西小学校

野崎弘作校長に聞く

## 湯川記念子ども科学教室

「おー」「飛んだー」。 秋晴れの空の下グラウン ドでは、ペットボトルで作 ったミニロケットが弧を描 き、歓声が上がりました。 子どもに理科や実験の楽し さを再発見してもらおう と、西宮市は毎年「湯川記 念事業」の一つとして「こ ども科学教室」を開いてい ます。今年も九月十三、十 四の両日、同市神祇町の 市立総合教育センターで開 かれ、約千八百人の参加者 でにぎわいました。

「湯川記念事業」はノー ベル物理学賞を受賞した湯 川秀樹博士が、同市苦楽園 に住んでいた一九三四年に 「中間子論」を発表したこ とに由来します。これを記 念して、博士の門下生らが

年前からスタート。今年 は「ペットボトルロケットを 飛ばそう」や「シャボン玉 の科学」など二十教室を開 きました。

現在の市立苦楽園小学校の 校庭に記念碑を建てまし た。また、市も若手物理学 者の輩出を目指し「西宮湯 川記念賞」の創設や市民向 けセミナーを始めました。 子ども向けの教室は、専 門的な行事が多い中、市民 に親しみやすいものをと六 小五年の栗田彩加さん(左) は「すくく飛んでびっくり」と興奮気味でした。



「ペットボトルロケット」に挑戦する子どもら。市立総合教育センター

## 探求心くすぐる 仕掛け盛り沢山

「子どもが興味を持って 楽しく勉強できます」と保護 者にも好評です。

この教室を手伝って三年 になるという兵庫県立東播 工業高校の森本雄一教諭 (四七)は「楽しい」できて うれしい」と素直に表現す

## 「学校」を

## 子ども講座 宮水ジュニア

「こんなに大きいのが見 つかったよ」。息を切らし て子どもが走ってきます。 手にしているのは車の部 品。メートル以上はあり そうです。浜辺での漂流物 調査で思わぬごみが見つか



り、みな驚いています。 学校週五日制で休みにな った土曜日を有意義に過ご してもらおうと、今年度か らスタートした子ども向け 文化講座「宮水ジュニア」。

一回目は鳥の観察です。 二回目は九月十三日に 上げ、八月から十月まで三 回の連続講座が開かれまし た。甲子園浜で、どんなこ

## 飛び出せ

「子どもが興味を持って 楽しく勉強できます」と保護 者にも好評です。

この教室を手伝って三年 になるという兵庫県立東播 工業高校の森本雄一教諭 (四七)は「楽しい」できて うれしい」と素直に表現す

野球のボールなど多種多様 で、「ごみ袋四袋分の収穫」 でした。

最も多かったのは、プラ スチック片や発泡スチロー ル片などでした。環境サポ ーターを務める母とともに 参加した佐田瑞季さん(七)は「市立小松小一年」は「思 ったより、プラスチックや 花火などの小さくなったも のが多かった」と話しまし た。

この講座では、西宮の豊 かな自然の中で、子どもた ちが自分と自然とのつなが りを感じることを目指して います。講師の松原さん は、「鳥の内臓にプラスチック がたまると苦しんでいる のを見て、どうしたらこ めを減らせるか、を考えら れるようになってくれれば」と期待しています。

## グローバルサイエンス科

## 市立西宮高に 来春専門学科

西宮市教委は来春から、市立西 宮高校(高座町)に理数系科目や 英語の学習に力点を置いた専門学 科「グローバルサイエンス科」 を開設することになりました。こ れまで普通科の中にあつた理数系 コースを専門学科に改編して、専 門性を高めるのが狙いです。

同校は一九八六年に理数コース を設置し、本年度に「グローバル サイエンスコース」に名称変更 してきました。改編後は、「探究 物理」や「地球生物学」など特色 ある科目を設けて、英語教育も充 実させる予定で、講義や実験指導 でも、大学や研究機関との連携を 深めて、「地球規模的なものを見方 ができる教育」を目指していま す。

## 小柴氏講演も

また、西宮市は昨年のノーベル 物理学賞受賞者、小柴昌俊東大名 誉教授を招いての講演会を、文教 住宅都市宣言四十周年の記念事業 として十二月七日、武庫川女子大 学公記記念講堂で開きます。テー マは「物理屋になりたかったんだ よ」。小柴さんには以前、「素粒 子で宇宙を見る」というテーマで 記念講演をしていただいた縁もあ り、今回講演をお願いしていま す。詳しくは市政ニュース十一月 十日号をご覧ください。